



共古日録 十七

共古日録 十七
共古日録 十七
共古日録 十七

共古日録 十七

共古日録 十七

共古日録 十七



特別
45
1413
19



門 15
號 1413
卷 19

十七



共古日錄
 知人向秀一安樂法也
 陳中今內無為而治
 天下極大而貴無為而治
 極小而世人適之
 擾其故河也任人與不任也
 興一事不若除一事生一事不若減一事
 一切物從其有無自有可回故米穀豆別為敏者
 則為粥其不選別糖之以為難苟薄鴉之屬乃他人一日
 之食余三日愈之而可飲
 醫者在石以錦馬跡綴之誰不笑之容我近愚之躬
 衣藤帶茅屋道戶而道矣



早稻田大學圖書館
 25 10 24
 購

人少則自為天真一切器物莫加彫飾
 床頭恒置雜柳時時散本則香氣自滿半
 小盆栽石蕙蒲置之案前朝請靈照珠
 天下皇樂在忘已也故善安身者忘其為多
 愚而不知其為愚吾聞人也其愚而傲慧者其猶
 村婦擬西施波若心在死處多見其不知量
 物無十在苟得其半則入世之大幸也
 茶雖美泉不可則不能過口玉以各亦其能過其
 前汲而烹之甘味勝惠山何若幸福
 若西石勝月獻著貧賤中ノ文ヲ彫スヨリガ
 系ハ強クニシテ日儲ノ者少ク共ニ年三彫スヨリガ



羽子板

日高國書所の羽子板



柄(おん)の如し
 大さ四の如し
 女(おん)の如し
 女(おん)の如し
 女(おん)の如し
 女(おん)の如し
 女(おん)の如し

日本書紀卷之四十一



新の御のなるに形のもの下の形の如き武蔵の御

姫路の御書道
の遺跡及考古

あつたの... 姫路城手前井東道修...
今昔... 姫路の御書道...
本敷板の... 御書道の...
姫路の人... 御書道の...

也者潮干の

此三年三月... 潮干の御書道...
也者潮干の御書道...
也者潮干の御書道...

馬琴の御書
扇面

馬琴の御書... 扇面...
馬琴の御書... 扇面...
馬琴の御書... 扇面...

御書
の御書

御書... 御書...
御書... 御書...
御書... 御書...

土著と花園
のの盤銀
な花園
お前の唐の
おの

まのり考の... 水盤銀... 鋼板... 勸化

花園の力石

あふ坂胡...
画の甲...

夢の...
夢の...
夢の...

花園... 鋼板... 勸化... 夢の... 鋼板... 勸化

本林三子
神社の書

あふ永二年の月 新造の秋 雪若あつ身形 左子生年三十三
の寸身 中ぬい長三寸七 指三寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
人指三寸 親の寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
人との強の寸 中ぬい長三寸七 指三寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
交三子 原尾 中ぬい長三寸七 指三寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
中ぬい長三寸七 指三寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
足の大さ十七文 一又二寸とふ
大男身形(寸)
六寸七寸 中ぬい長三寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
人言ふ 親の寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
足三寸 親の寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
親の寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と

本林三子
神社の書

大改東遠く 本林三子とふ 中ぬい長三寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
あ、用明天皇の御紀 中ぬい長三寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
又中ぬい長三寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
至自新造の御紀 中ぬい長三寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
今の御紀の御紀 中ぬい長三寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
也身の名あり 中ぬい長三寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
考に初に建てる 中ぬい長三寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
ろれなる 中ぬい長三寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
相の寸 中ぬい長三寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
と寸 中ぬい長三寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
と寸 中ぬい長三寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
神皇正統記の御紀 中ぬい長三寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と
神皇正統記の御紀 中ぬい長三寸 小指と人指との高の寸 四寸 親と

江戸の地名

忍りの心... 江戸の地名... 忍りの心... 江戸の地名... 忍りの心... 江戸の地名...

三河の地名

三河の地名... 忍りの心... 江戸の地名... 忍りの心... 江戸の地名...

ヤボテン

江戸の地名

天保元年
二月

若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を
 前記の破名中、記せむ、何れの中、正座の者か
 幕府の女中、廿五、執の事、何れの中、正座の者か
 に、若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を
 天保元年三月、若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を
 の、若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を
 人下、女中、二百、若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を
 几、女中、上、若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を
 女、若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を
 若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を
 の、若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を
 の、若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を

女中、以下

女中、以下

駿河守、以下

弘化二年五月の慶を、下れ、若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を
 何れの中、鬱々、中破の女中を、何れの中、鬱々、中破の女中を
 若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を、何れの中、鬱々、中破の女中を
 若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を、何れの中、鬱々、中破の女中を
 若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を、何れの中、鬱々、中破の女中を
 若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を、何れの中、鬱々、中破の女中を
 若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を、何れの中、鬱々、中破の女中を
 若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を、何れの中、鬱々、中破の女中を
 若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を、何れの中、鬱々、中破の女中を
 若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を、何れの中、鬱々、中破の女中を

又、若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を、何れの中、鬱々、中破の女中を
 又、若七好、老女の物、何れの中、鬱々、中破の女中を、何れの中、鬱々、中破の女中を

高木... 杉... 松... 柏... 榎... 柳... 楓... 椿... 桐... 栗... 柿... 桑... 梨... 桃... 杏... 梅... 李... 桃... 杏... 梅... 李... 桃... 杏... 梅... 李...

二本松... 揚枝松... 千歳松... 新の松

三本松... 長谷寺

三股椿... 比叡寺

影向の... 相生の椿

複... ひらけ枝... 遠東枝... 志の枝

製成枝... 神木の枝... 太平枝

道徳子枝... 縁切枝... 花の枝

竹... 笠の竹... 袖の竹... 義竹

三股の竹... 足立の竹... 足立の神田村

江戸... 細見... 女子の名... 書

意平... 寛保... 寛文... 天明... 文政... 天保... 弘化... 嘉永... 天保... 弘化... 嘉永...

百度詣

卯熙春の春山治而如夏山蒼而如高秋山
明淨命如粧久山修淡而如肥
梅の冬の所く七笑いふ
心笑の春なる北海者の徳

千度詣

百度詣 東鑑文治五年八月十日於鎌倉御幸
以前所中女房数輩有詔周百度詣是奥州進爵御
祈禱也 平戸記 延應二年二月十日臨夜景雲之參
秘圖一依恒例之勤一率之教有百度詣事
千度詣 續應仁後記 天文十九年二月前邊年家の違例
云云 此殿之根本中堂葉山如來ノ堂故ニ於テ修養ノ中
丹波ヲ罷シ千度ノ祈礼ヲ勤メ向テ修養ノ祈念ニ奉ル
云云

塩山

鹽山 梵書日記 慶長七年十一月八日葉山鹽立
七人申付 塩山三運頼の禮也 同十八年九月八日葉
山修造 塩山名代申付云々

二代目書

二代目書 本所五月十日塩山の條 五五成字國員
とてり 考あり 嘗て國書が書き 水許山が火前
まゝある者あり

四代目書

四代目書 五月二十日新 興事誌七巻 なる唐告神
四代目書の割合に引請 小事
月拾三行申位と申す 見ゆ

錐大明神

毎金場

三平七流し船を越せり申念の上

流し船を越せり申念の上

可限心也

諸神

此大明神御

此大明神御

豆蔵尊

此大明神御

榎木端

大明神

此大明神御

出世

此大明神御

此大明神御

此大明神御

此大明神御

此大明神御

此大明神御

新天竺のありありと方世ありしゆの爲に
あやめをのちのちうてふに死なむけり
たけちやんとのこましし

今昆野天権現 虎之
京極権内をのわい ありとも
事や ありとも ありとも
の事速にあらざり

瑜伽山大権現 虎之
世の極の極あり ありとも
てそのこころちんちん ありとも
信のこころちんちん ありとも

日蓮 大菩薩 ありとも
おふ者の者ありとも
の者信んぬに ありとも

廣申 ありとも
ありとも ありとも
ありとも ありとも
ありとも ありとも

成田山 ありとも
重験ありとも
を授けぬありとも
并山の各像ありとも

茶樹 ありとも
眼のありとも
眼のありとも
眼のありとも

らんぶうの月あまのつらこにしん乾のつらこ
しん乾のつらこにしん乾のつらこにしん乾のつらこ
未瓜あまのつらこにしん乾のつらこにしん乾のつらこ

疾の安んじ 御換所

疾の安んじ 御換所
疾の安んじ 御換所
疾の安んじ 御換所

曲言の福多の大明神 赤坂

大國の福多の大明神 赤坂
大國の福多の大明神 赤坂
大國の福多の大明神 赤坂

相好の福多の大明神 赤坂
相好の福多の大明神 赤坂
相好の福多の大明神 赤坂

相好の福多の大明神 赤坂
相好の福多の大明神 赤坂
相好の福多の大明神 赤坂

今川 ざにかまして信を命あり

福徳の福多の大明神 赤坂
福徳の福多の大明神 赤坂
福徳の福多の大明神 赤坂

大智の福多の大明神 赤坂
大智の福多の大明神 赤坂
大智の福多の大明神 赤坂

仁王の福多の大明神 赤坂
仁王の福多の大明神 赤坂
仁王の福多の大明神 赤坂

仁王の福多の大明神 赤坂
仁王の福多の大明神 赤坂
仁王の福多の大明神 赤坂

仁王の福多の大明神 赤坂
仁王の福多の大明神 赤坂
仁王の福多の大明神 赤坂

仁王の福多の大明神 赤坂
仁王の福多の大明神 赤坂
仁王の福多の大明神 赤坂

仁王の福多の大明神 赤坂
仁王の福多の大明神 赤坂
仁王の福多の大明神 赤坂

仁王の福多の大明神 赤坂
仁王の福多の大明神 赤坂
仁王の福多の大明神 赤坂

仁王の福多の大明神 赤坂
仁王の福多の大明神 赤坂
仁王の福多の大明神 赤坂

勢天ののり... 女の物... 成就... 玉... 礎

三途川... 昔代... 前... 物

車... 大明神... 幸... 命

戸... 神... 船... 月... 船... 船

勢守... 大明神... 船... 船

平念... 米... 船... 船

舟... 天... 船... 船

平念... 船... 船... 船

平念... 船... 船... 船

綱心藏尊

なりけり 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに

子

子 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに

文聖大権現

文聖大権現 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに

高尾大明神

高尾大明神 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに

大田姫

大田姫 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに

禰

禰 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに

上行

上行 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに 綱心藏尊の御名をいふに

またが平愈ちるのわづらひは、
かだのいづこも眼をへりて
一言観世音のあまのついで

日向院のまゝあはる破形えす
つひに終るわかれがちきりけし
せしむるにちきりいづれし

瘧疾必成る餅
驚き切れるの如き也
あはれいづれに終るのめ
此の瘧疾の如き高きを
女はあはれに終る

女はあはれに終る
あはれに終るのめ
あはれに終るのめ
あはれに終るのめ
あはれに終るのめ

瘧疾の神
瘧疾の神
瘧疾の神

瘧疾の神
瘧疾の神
瘧疾の神
瘧疾の神
瘧疾の神

瘧疾の神
瘧疾の神
瘧疾の神
瘧疾の神
瘧疾の神

瘧疾の神
瘧疾の神
瘧疾の神
瘧疾の神
瘧疾の神

この故に... 豊秋ありんすと云ふ... 五穀ありん...
 その... 豊秋ありんすと云ふ... 五穀ありん...

水神 祠 福本

水神祠の... 祠あり... 水神祠の... 祠あり...

鬼子母 中 中目黒村

心普く... 鬼子母... 中目黒村... 心普く... 鬼子母... 中目黒村...

倉屋の... 倉屋の... 倉屋の... 倉屋の...

念して... 念して... 念して... 念して...

龍神 社... 龍神 社... 龍神 社... 龍神 社...

右近... 右近... 右近... 右近...

成... 成... 成... 成...

新田大明神 六村

富山... 富山... 富山... 富山...

岩屋 下目黒村

岩屋... 岩屋... 岩屋... 岩屋...

ぬの仁恵のまを青くく一月昔の縁日京極皇女あり

あけぬ世をみる御座り

秋は子を世をみる御座り 母を思ふ御座り 父を思ふ御座り 弟を思ふ御座り 妹を思ふ御座り

極重石御座り

乃馬曲輪の御座り 乃馬曲輪の御座り 乃馬曲輪の御座り 乃馬曲輪の御座り 乃馬曲輪の御座り 乃馬曲輪の御座り

乃馬曲輪の御座り 乃馬曲輪の御座り 乃馬曲輪の御座り 乃馬曲輪の御座り 乃馬曲輪の御座り 乃馬曲輪の御座り 乃馬曲輪の御座り

の勢を任す候なり
新火日如来 結句根

心光境空と云ふ事は此の如くなり
光の境空なるは此の如くなり
光の境空なるは此の如くなり
光の境空なるは此の如くなり

光の境空なるは此の如くなり
光の境空なるは此の如くなり
光の境空なるは此の如くなり
光の境空なるは此の如くなり

光の境空なるは此の如くなり
光の境空なるは此の如くなり
光の境空なるは此の如くなり
光の境空なるは此の如くなり

帝釋天 妙行

光の境空なるは此の如くなり
光の境空なるは此の如くなり
光の境空なるは此の如くなり
光の境空なるは此の如くなり

経読神師 黙然

光の境空なるは此の如くなり
光の境空なるは此の如くなり
光の境空なるは此の如くなり
光の境空なるは此の如くなり

座王権現 妙行

光の境空なるは此の如くなり
光の境空なるは此の如くなり
光の境空なるは此の如くなり
光の境空なるは此の如くなり

子...の...
 義...
 義...

福...
 福...
 福...
 福...
 福...

不許...
 山女...

神...
 神...
 神...
 神...
 神...

東里山人...

嘉明大明神...
 嘉明大明神...
 嘉明大明神...

の果樹ありてなるや均然り

妙見大菩薩御

能く物に瓦を御運出せ給ふは御徳の立証なり
あまの御心よりその御徳の利益を御授け給ふは御心
の御徳の御心

東平親世尊 青い山久保町

御徳の御心よりその御徳の利益を御授け給ふは御心
の御徳の御心

大勢明神 下日黒

御徳の御心よりその御徳の利益を御授け給ふは御心
の御徳の御心

滝邊神社 土手町

御徳の御心よりその御徳の利益を御授け給ふは御心
の御徳の御心

大田村 御徳の御心

御徳の御心よりその御徳の利益を御授け給ふは御心
の御徳の御心

祖師大菩薩 青い山

御徳の御心よりその御徳の利益を御授け給ふは御心
の御徳の御心

高麗神社 下月

高麗神社の御祭神は高麗王... 高麗王の御霊を祀りて... 高麗王の御霊を祀りて... 高麗王の御霊を祀りて... 高麗王の御霊を祀りて...

梅林天神社 四谷新町

梅林天神社の御祭神は天神... 梅林天神社の御祭神は天神... 梅林天神社の御祭神は天神... 梅林天神社の御祭神は天神... 梅林天神社の御祭神は天神...

考多し世なり木の女高野あり

弘明寺大師 三河

弘明寺大師 三河 弘明寺大師 三河 弘明寺大師 三河

北野大橋

北野大橋 北野大橋 北野大橋 北野大橋

熊野大橋

熊野大橋 熊野大橋 熊野大橋 熊野大橋

古奈明神

古奈明神 古奈明神 古奈明神 古奈明神

女辨大明神

女辨大明神 女辨大明神 女辨大明神 女辨大明神

戸越八幡

戸越八幡 戸越八幡 戸越八幡 戸越八幡

御黒大橋

御黒大橋 御黒大橋 御黒大橋 御黒大橋

小島不動

小島不動 小島不動 小島不動 小島不動

昔巻をりてあそび多かりしに
此の巻のりてあそび多かりしに
此の巻のりてあそび多かりしに
此の巻のりてあそび多かりしに
此の巻のりてあそび多かりしに

世田親世多かりしに
世田親世多かりしに
世田親世多かりしに
世田親世多かりしに
世田親世多かりしに

あそび多かりしに
あそび多かりしに
あそび多かりしに
あそび多かりしに
あそび多かりしに

あそび多かりしに
あそび多かりしに
あそび多かりしに
あそび多かりしに
あそび多かりしに

親世多かりしに

あそび多かりしに
あそび多かりしに
あそび多かりしに
あそび多かりしに
あそび多かりしに

あそび多かりしに

あそび多かりしに
あそび多かりしに
あそび多かりしに
あそび多かりしに
あそび多かりしに

あそび多かりしに

あそび多かりしに
あそび多かりしに
あそび多かりしに
あそび多かりしに
あそび多かりしに

大雪の晴る 大雪

永福寺の参り 一坊の法子に白丸月十九日参りて建長寺瑞
徳園法堂より雲宗徳高寺の互能果然ありて利
生を思ふ事多し

瑞雲の火切申 田舎新地
三光堂の参りありて新地を巡りて瑞雲の法堂
より参りて法子に法堂の法子に法堂の法子に

法子の法子に法子に法子に法子に法子に法子に
法子の法子に法子に法子に法子に法子に法子に

法子の法子に法子に法子に法子に法子に法子に
法子の法子に法子に法子に法子に法子に法子に

法子の法子に法子に法子に法子に法子に法子に
法子の法子に法子に法子に法子に法子に法子に

法子の法子に法子に法子に法子に法子に法子に
法子の法子に法子に法子に法子に法子に法子に

法子の法子に法子に法子に法子に法子に法子に
法子の法子に法子に法子に法子に法子に法子に

法子の法子に法子に法子に法子に法子に法子に
法子の法子に法子に法子に法子に法子に法子に

法子の法子に法子に法子に法子に法子に法子に
法子の法子に法子に法子に法子に法子に法子に

法子の法子に法子に法子に法子に法子に法子に
法子の法子に法子に法子に法子に法子に法子に

法子の法子に法子に法子に法子に法子に法子に
法子の法子に法子に法子に法子に法子に法子に

研支谷仁王尊いん
 吉澤尊の御名をいふに
 初孫の御名をいふに
 有る人の御名をいふに
 兵運不効なる也
 其性を又あはれり
 その御名をいふに
 武多三神社 三井戸 海女村
 本多天神 虎中神社 青柳神社 くら 倉屋
 此の御名をいふに
 道徳天の御名をいふに
 敬勝尊の御名をいふに
 若孫の御名をいふに

のまの御名をいふに
 武多天神の御名をいふに
 虎中神社の御名をいふに
 青柳神社の御名をいふに
 くら 倉屋の御名をいふに
 道徳天の御名をいふに
 敬勝尊の御名をいふに
 若孫の御名をいふに
 瑞雲司天橋の御名をいふに
 武多天神の御名をいふに
 虎中神社の御名をいふに
 青柳神社の御名をいふに
 くら 倉屋の御名をいふに
 道徳天の御名をいふに
 敬勝尊の御名をいふに
 若孫の御名をいふに

妙歌寺あり首七破人お拜せし入向九多つの中女懐胎の折相所天の能歌ししてまゝのまゝなるなりお拜せしともかろし思ふ天をの福既蒙るゝまゝのめかす利を

薬師如來 古川村

神代杖の根より霊泉涌出此水は目と皮に効かあるは昔此の地に住む人等が所がごとく眼を癒すの靈薬と信じてあり其の地をめぐりて利を蒙る者多し

祖師大善菩薩 中ノ吉草寺あり其の地をめぐりて利を蒙る者多し

たゞしくは牧養の地あり此の地をめぐりて利を蒙る者多し

東高野山 谷原村 利を蒙る者多し

二枚の地あり是の地をめぐりて利を蒙る者多し

の利を蒙る者多し 此の地をめぐりて利を蒙る者多し

珂碩二人勝 東沢村

浄土あり九層の佛あり毎年四月三日より五月三日の勝七層あり一層の地あり此の地をめぐりて利を蒙る者多し

高井村

仙女香美言者 本家 坂本及施杖

此の地をめぐりて利を蒙る者多し 此の地をめぐりて利を蒙る者多し

支那春蘭

支那の春蘭は芳香よきものとふも、その静寂、清しき書
香かき、新芽は、ふらふらと、ゆるゆると、ゆるゆると、
のまゆを、うらやま、あつた、のまゆ、のまゆ、のまゆ、
美草三片、葉の、一、二、三、片、葉、の、一、二、三、片、
支那春蘭、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
三、片、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
それ、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
若草、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
二、片、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、

立圃のり

立圃のり、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
若草、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
二、片、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
若草、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
二、片、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、

美草のり

立圃のり

立圃のり、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
若草、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
二、片、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
若草、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
二、片、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、

立圃のり

立圃のり

立圃のり、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
若草、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
二、片、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
若草、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
二、片、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、

立圃のり

立圃のり、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
若草、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
二、片、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
若草、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、
二、片、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、の、花、の、初、め、

四谷左門所
仲所の知の

四谷左門所より
仲所の知の
所名となり

集土本
集土本

集土本
南鑿鉄後藤目

笠子
笠子

年月詳有る物
右井村
色の
和蘭
右の
鉄高鬼

極片箱

三二改定
お歌

古鏡
古鏡
と
文
み
み
申
申

五流
五流

供養

五流
同
供養
あ

寺にて修行されたる地主に殺鼠劑猫いらすの發明者
 成名某氏にその平部某子に「靈藏百千方の靈靈發見」
 靈藏百千方の靈靈發見と書きしを以て始末の傳は
 供養せしむるの儀を以て「靈藏百千方の靈靈發見」
 二月の甲寅に西院に修行したる所の靈藏百千方の靈靈發見
 神功者として修行せしむるの儀を以て「靈藏百千方の靈靈發見」
 中にて修行せしむるの儀を以て「靈藏百千方の靈靈發見」

安永四年の普老に各書經を寫すの次第
 天保二年の普老に各書經を寫すの次第
 安永三年の普老に各書經を寫すの次第
 天保二年の普老に各書經を寫すの次第

安永三年の普老に各書經を寫すの次第
 天保二年の普老に各書經を寫すの次第
 安永三年の普老に各書經を寫すの次第
 天保二年の普老に各書經を寫すの次第

普老に
 一の西見弱の書
 多末後萬分
 天保二年の普老に各書經を寫すの次第
 安永三年の普老に各書經を寫すの次第
 天保二年の普老に各書經を寫すの次第
 安永三年の普老に各書經を寫すの次第
 天保二年の普老に各書經を寫すの次第

安永三年の普老に各書經を寫すの次第
 天保二年の普老に各書經を寫すの次第
 安永三年の普老に各書經を寫すの次第
 天保二年の普老に各書經を寫すの次第

安永三年の普老に各書經を寫すの次第
 天保二年の普老に各書經を寫すの次第
 安永三年の普老に各書經を寫すの次第
 天保二年の普老に各書經を寫すの次第

安永三年の普老に各書經を寫すの次第
 天保二年の普老に各書經を寫すの次第
 安永三年の普老に各書經を寫すの次第
 天保二年の普老に各書經を寫すの次第

引揚屏風

將軍より、のち、中、下山、八幡社、あり、い、く

雍易府志、一、屏、凡、所、々、製造、是、特、回、信、通、引、揚、某

家、而、由、曲、曲、大、小、屏、凡、指、多、甲、言、事、色、造、所、好、而、有、之

と、あり、引、揚、引、凡、と、い、ふ、に、なる、其、祖、煙、云、引、揚、引、凡、

り、し、い、の、迄、あり、千、社、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、天、宗、弘、平、の、御、孫、也、

外、に、あ、る、は、其、名、有、る、故、也、天、宗、弘、平、の、御、孫、也、

命、と、解、著、る、故、也、引、揚、引、凡、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

為、何、と、い、ふ、は、引、揚、引、凡、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、引、揚、引、凡、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、引、揚、引、凡、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、引、揚、引、凡、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

天宗弘平の御孫

千社弘の御孫及
千社弘の御孫及
千社弘の御孫及

此書、わ、り、し、い、の、迄、あり、千、社、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

為、何、と、い、ふ、は、引、揚、引、凡、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、引、揚、引、凡、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、引、揚、引、凡、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、引、揚、引、凡、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、引、揚、引、凡、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、引、揚、引、凡、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、引、揚、引、凡、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、引、揚、引、凡、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、引、揚、引、凡、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、引、揚、引、凡、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、引、揚、引、凡、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、引、揚、引、凡、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、引、揚、引、凡、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、引、揚、引、凡、と、い、ふ、は、其、名、有、る、故、也、

文則
泉聖

なあり又安永八年の板書其の柱に利生とありし
廊下は扇觀せ水と銘し各三次此の政書画の三冊の
文が互角板のめり致趣して運角の扇の美と銘せし
あり書書の致趣を觀るに境内のものも此画に
堂地蔵尊の堂の画あり小堂の中にも此の欄干
の致趣をみるべきに右の角に清々としてあり此の柱に
に柱あり觀るべきの柱なるかこれぞ 千社と千社
ありて下に三行の書し此の張りあり 千社と千社
千社あり此の画から 千社と千社 千社と千社
千社あり此の画から 千社と千社 千社と千社
千社あり此の画から 千社と千社 千社と千社

千社あり此の画から

此の文は王年よりありて 千社と千社 千社と千社
此の文は王年よりありて 千社と千社 千社と千社
此の文は王年よりありて 千社と千社 千社と千社
此の文は王年よりありて 千社と千社 千社と千社
此の文は王年よりありて 千社と千社 千社と千社
此の文は王年よりありて 千社と千社 千社と千社
此の文は王年よりありて 千社と千社 千社と千社
此の文は王年よりありて 千社と千社 千社と千社
此の文は王年よりありて 千社と千社 千社と千社
此の文は王年よりありて 千社と千社 千社と千社

女房が致しひな 千社と千社 千社と千社

二納札起原の

しからしむる大納札の繪本を改めし
安政五年正月の枝の多良編輯の納札起原の繪本
説に依り納札起原の二編と云ふものありし
希ふる志之年二可十の揚田を云ふものありし
なる二編と云ふ安政五年秋とありて金比道人編輯せし
もの初編と同一く牌位堂長持とありて口繪の林如
見高徳と云ふものありし比若万石と云ふものありし
而して金比道人の繪本と云ふものありし納札起原
武蔵六輪多と云ふ二書と云ふものありし納札起原
安政見納札ありし二編と云ふものありし納札起原
而して納札起原の繪本と云ふものありし納札起原

連札の又稱

旭が孔平信の 男信託
二篇の納札起原の多と云ふものありし
連札の繪本と云ふものありし
巴連の今の右并の絵と云ふものありし
安政の頃の又の繪と云ふものありし
二編と云ふものありし
申す所が立回連の連本なり
納札の起原と云ふものありし
申す所の見しものありし
家の中の二枚板の脚繪と云ふものありし
安政の頃の二枚板の脚繪と云ふものありし

錦画の又稱

菊画の納札

題名考
二枚あり

延而テ十八名セツルあり
其の第一は伊藤方丈の書
其の第二は伊藤方丈の書
其の第三は伊藤方丈の書
其の第四は伊藤方丈の書
其の第五は伊藤方丈の書
其の第六は伊藤方丈の書
其の第七は伊藤方丈の書
其の第八は伊藤方丈の書
其の第九は伊藤方丈の書
其の第十は伊藤方丈の書
其の第十一は伊藤方丈の書
其の第十二は伊藤方丈の書
其の第十三は伊藤方丈の書
其の第十四は伊藤方丈の書
其の第十五は伊藤方丈の書
其の第十六は伊藤方丈の書
其の第十七は伊藤方丈の書
其の第十八は伊藤方丈の書

題名考
二枚あり
延而二十三名セツルあり
其の第一は伊藤方丈の書
其の第二は伊藤方丈の書
其の第三は伊藤方丈の書
其の第四は伊藤方丈の書
其の第五は伊藤方丈の書
其の第六は伊藤方丈の書
其の第七は伊藤方丈の書
其の第八は伊藤方丈の書
其の第九は伊藤方丈の書
其の第十は伊藤方丈の書
其の第十一は伊藤方丈の書
其の第十二は伊藤方丈の書
其の第十三は伊藤方丈の書
其の第十四は伊藤方丈の書
其の第十五は伊藤方丈の書
其の第十六は伊藤方丈の書
其の第十七は伊藤方丈の書
其の第十八は伊藤方丈の書
其の第十九は伊藤方丈の書
其の第二十は伊藤方丈の書
其の第二十一は伊藤方丈の書
其の第二十二は伊藤方丈の書
其の第二十三は伊藤方丈の書

天保十一年
伊藤方丈の書
二枚あり

伊藤方丈の書
天保十一年
二枚あり
延而二十三名セツルあり
其の第一は伊藤方丈の書
其の第二は伊藤方丈の書
其の第三は伊藤方丈の書
其の第四は伊藤方丈の書
其の第五は伊藤方丈の書
其の第六は伊藤方丈の書
其の第七は伊藤方丈の書
其の第八は伊藤方丈の書
其の第九は伊藤方丈の書
其の第十は伊藤方丈の書
其の第十一は伊藤方丈の書
其の第十二は伊藤方丈の書
其の第十三は伊藤方丈の書
其の第十四は伊藤方丈の書
其の第十五は伊藤方丈の書
其の第十六は伊藤方丈の書
其の第十七は伊藤方丈の書
其の第十八は伊藤方丈の書
其の第十九は伊藤方丈の書
其の第二十は伊藤方丈の書
其の第二十一は伊藤方丈の書
其の第二十二は伊藤方丈の書
其の第二十三は伊藤方丈の書

京のくんとて思つた桃林の書は好ぶあり
拙くはつたをまはすの心平江方胡れの教く

文久二年の題名

納札題名集 用てりし大向書より西の十六
載せし書 墨書より文久二年の書 刻成とす
此書は多くおぬとす 白雲方よりあるとす
大向書は西の十六年とす 大向書は西の十六年
とす Cookoo. 大向書は西の十六年とす
赤煉瓦を積りて横塚の形をさすあり西の初年に
おぬとす 西の十六年とす 西の十六年とす
文久二年の書 納札は徳徳の札あり 解せしあり 其
何のからぬあり 西の十六年とす 西の十六年とす
あり 西の十六年とす 西の十六年とす

大向書を用い
の納札

徳徳の納札

金徳令末

銀木

解札表

解札表

十八日、八女山の幸のまわらぬ
此等解し札

八角連再興の

八角連の再興の札あり 江銀を若者の書なり 札あり
文あり 八角連の再興の札あり 江銀を若者の書なり 札あり
今より五十年前の天保の始り用の札流行のめし札の
札あり 亦安政の末の春の形なり 諸君の
星の書あり 亦安政の末の春の形なり 諸君の
大黒夫の影を刻したる納札あり 何處方々の故あり
大鶴成就し 大黒夫の影を刻したる納札あり 何處方々の故あり
加一印施し 大黒夫の影を刻したる納札あり 何處方々の故あり

大黒夫の影を
刻せし納札

天白 熊野詣

北の末に... 熊野詣の... 平城... 三山五箇度
三山一箇度
三山八箇度
平城... 向河...
後而河...
平吉... 亦吉...

天白 熊野詣

北の末に... 熊野詣の... 平城... 三山五箇度
三山一箇度
三山八箇度
平城... 向河...
後而河...
平吉... 亦吉...

教通... 雅樂... 三村... 信敏

あつ... 書... 紅...

宝永六年五月廿三日... 父の享年考... 孔子の享年考... 五十三次の間づ

画の至... 錦江... 伊豆... 山長

大椿... 京都... 伊豆... 山長... 孔子の享年考... 五十三次の間づ

坂田千代田連
の會あり

公卿方は義古の會筋は角紙(多)事(セ)り

千社河連中(二十)二(小)

千代田、多(代)及(三)大(會)十六(枚)か(等)

多(古)し(中)外(、)銘(高)板(か)け(二)枚(か)け(一)枚(か)

あ(ま)り(、)あ(ま)り(、)中(小) 坂田千代田連

源加一より加十迄
の如ありて源加四
あり

源加一より源加十迄の如あり但源加四を見ずして代
玉加子あり

物二者迄あり

物二者迄あり物二者迄あり物二者迄あり

大向の桶

大向の桶あり

坂田連千代田

坂田連千代田

共古日録十七 月百九



Handwritten text in Chinese characters, including:
寄下集本
山中
發
地
Various other characters and phrases, some appearing to be names or addresses.

